

進化経済学を棚卸しする/ クルーグマンの批判と進化経済学

塩沢由典

概要

- 進化経済学の初心
- P. Krugman の批判について
- 進化経済学会の現状
 - 現状への苦情も含めて
- 心がけるべきこと3つ
- 目指すべき方向3つ
- 具体的な提案3件

(日本)進化経済学会の歴史

- 1996年9月第2回発起人大会
- 1997年3月進化経済学会(JAFEE)創立
- 先行する学会と雑誌:
 - Association for E.E. *J. of Econ. Issues*
 - International J. Schumpeter S. *J. of E.E.*
 - ESEPE *J. of Institutional Economics*
 - *Industrial and Corporate Change* (R. Nelson)
- 連携(実質を含む) 計測制御学会、日本物理学会(経済物理学)、組織学会、韓国・イノベーション経営経済学会、等

進化経済学会の出版物

- 『進化経済学とは何か』有斐閣、1998.3
- ゲネシス進化経済学(3冊、シュプリンガー・東京)
 - 『方法としての進化』2000.6
 - *Evolutionary Controversies in Economics: A New Trans-disciplinary Approach*, 2001.8
 - 『社会経済体制の移行と進化』2003.1
- *Evolutionary and Institutional Economics Review* 創刊 2004.9、既刊8巻・累計16号。
- 『進化経済学ハンドブック』共立出版、2006.9

学会の公式出版以外

● 教科書

- 西部・吉田代表編『進化経済学 基礎』2010
- 谷口和久『生産と市場の進化経済学』2011

● 研究書(ここ1・2年のもののみ)

- Boyer, Uemura & Isogai (Eds.) *Diversity and Transformation of Asian Capitalism* 2012
- Yagi(2011)、Aruka (Ed.) (2012)
- 八木・服部・江頭編『進化経済学の諸潮流』2011
- 安孫子誠男『イノベーション・システムと制度変容』2012
- Amazonで「進化経済学」を検索すると107冊がヒットする。

● 研究論文?

進化経済学の初心

- 新古典派の「非現実的」「まちがった」理論ではない、新しい経済学を作りたい。
- 「進化」という見方(変化を進化と見る方法)がその手がかりになるのでないか。
- 私見:「反」の集まりでよかった。
- 瀬地山敏(1998):進化経済学の新しさは、時間と空間を再発見。

P. Krugmanの批判

1. “Neo Fights (Slightly Wonkish and Vague)” Blog August 28, 2012, 9:23 am
 - 新古典派経済学は、現実から離れてるかもしれないが、シミュレーションも非現実的である点では同様だ。新古典派の非現実性を批判する人たちは、ただ拒否の言葉を多産する言葉遊びをしているに過ぎない。(2)の批判に繋がっています。
2. THE FALL AND RISE OF DEVELOPMENT ECONOMICS 1994
 - 初期開発経済学は、高度な経済学high economicsではあったが、適切な分析方法を持たなかったために衰退した。開発経済学は、その新古典派的転回によって、再生できた。高度な経済学は、意図はよいとしても、分析を進める上では非力である。
3. WHAT ECONOMISTS CAN LEARN FROM EVOLUTIONARY THEORISTS EAEPE Nov. 1996
 - 進化経済学の現状に対する批判。進化生物学の先端は、新古典派に近い研究をしている。「進化」を持ち出して分析を回避できると思うのは経済学者の怠慢である。

おもしろい点、参考になる点

- 観察1 PKは数学モデルとABSが好き。
- 観察2 概念的考察が長いのには我慢がならない。
- 批判の当たっている点
 - 非主流各派・異端派の学問生産性が低い。
 - 「(高度な)経済学をしている振りをしているだけ」
- PKからのヒント: 空間、時間(<瀬地山)
 - 浅田藤一郎他編『Economics of Time and Space』
 - 進化成長理論(Pasinetti, Saviotti, Matsumae、...)
 - 進化経済地理学(PKの後追いでない豊富な新領域?)
 - 吉田雅明

根本での問題(1)

- 最大化・均衡とその近傍(「すこしだけ外れる」)では、掴めない重大な現象がある。
- 最大化・均衡に頼らなくても、経済学の理論的核は構成可能。
 - Cf. 第20回 ケインズと古典派価値論
 - Cf. ABSは限定合理性(視野・働きかけの限界)を定式化している。
- 新古典派を核とすることによる経済観と政策のゆがみ

根本での問題(2)

- とうめん分析できないからといって、主題の重要性は変わらない。
 - 分析できるから重要・重大ではない。
 - 「街灯の下で鍵を探す男」の譬え
- 真に重要な問題に接近する努力が必要。
 - 最大化・微分・変分学だけでない数学的武装
 - ABSには、高度なプログラミング能力と高度な経済学理解が必要(教育プログラム開発が必要?)

ハンディを逆手に取る。

- 限定合理性・均衡に頼らないことで新しい分析方向が見えてくる。
- 合理性・視野・働きかけの限界
 - 時間の中の主体 (過去・自分に起こったこと)
 - 支配変数は1つ(少数) 価格と数量>どちらか
- 均衡に頼らない
 - 過程分析(過去と現在・未来を明確に分離)
 - 半自動的決定(ルーティン)
 - 情報交換の明示化(ABS:ループが入れば動かない)

進化経済学を生かせる分野・領域

- PK:進化ゲーム！ RN:進化ゲームとNLD？
- 組織進化(Simon, Nelson, 藤本隆宏)
 - 進化経営史学 橘川・島田(2006)
- 経済地理学(Frenken、Lambooy)
 - 地理学の3世代(80's 制度経済地理学、90's新経済地理学、00's進化経済地理学)
 - PKらの新経済地理学>地理学内部でのMethodenstreit
 - Boshma & Frenken (2006) 進化経済地理学へ
 - 経済地理学・地域経済学の利点=>地域別・均質データ

学会の現状(1) 議論継続体として

● 学会での発表、EIERでの論文

- 内部引用・相互引用が少なすぎる!
- 自前の問題提起と相互討論ができていない。
- 後出>>「議題設定能力を持て。」

● 江頭進『進化経済学のすすめ』2002

- ML第7回「知識と進化経済学」だれが議論したか?
- 日経ビジネス2009.3インタビュー、Blogで何点か
- 江頭進(2004) 進化経済学会TS。
- 井庭崇他(2006) Boxed Economy、授業にも
- 樋口浩義(2003)「原価企画の進化論」、村上亨(2005)「制度分析の方法と視座」、小野進(2002)、高尾厚(2002)他

学会の現状(2) 知識創造体として

- 主題の展開はできているか
 - 塩沢(1983) 在庫調節過程>不安定
 - 谷口(1997)、森岡(2005) 平均値を用いれば安定
 - Michael Wegener and Frank Westerhoff (2012) *JoEE* 22(2): 251-273.
 - 吉田雅明「プロセス集積体制」EIER 1(1)、『基礎』5章
 - 均衡・完全合理性に頼らない模範例
- ABS: 十分重要な問題提起ができているか。
 - シミュレーションが目的ではなく、経済分析の展開が目的
 - 既存の経済理論の創造的破壊が必要>>後出

学会の現状(3) もっとも厳しい批判?

- 小野進(2002)「進化経済学の最先端」『立命館経済』第51巻・第2号81-100.
- 4.感想と教訓 学問の内生的な発展は
 1. パラダイムの発生
 2. 支持集団の形成
 3. 教科書化・経典化
 4. 制度化・講壇化の順序で行われる。何故日本で経済学の新パラダイムが出ないのか。
- 進化経済学も借り物ではないか。

新しい主流としての覚悟

- 進化経済学を先導する意気込み
- AERや*Econometrica*を気にしない。
- 気にするなら
 - JoEI, JoEE, JoIE, IaCC
 - *Asian Journal of Technology Innovation*
 - *Evolutionary and Institutional Economics Review*
- 現実との接点をもて
 - マクロの抽象理論vs.現場、社会活動、実証、歴史
 - 経営学、会計学、経済史、産業技術論

議題設定能力を持って。

●日本の物理学

- 湯川秀樹 中間子論

- 朝永・繰り込み理論、南部・対称性の自発的破れ

●日本の経済学はまだ植民地状態？

- 主流も、異端派も

- 後追いでは、ぜったい先端には入れない。

●自分たちで問題(意識)を育てる。

参考：進化経済学会での相互引用

ニューズレター30号(2011春)

● 第15回名古屋大会・要旨集(全77本)

- 「進化経済学」に言及 $24/77=0.31$ 、「進化」392箇所、「evolution」111箇所
- 『論集』掲載論文引用3本、学会出版物 計5本

● EIER 第4巻～第7巻1号 論文等59本

- 日本人名を含むもの 35本 $35/59=0.59$
- うち総文献数560件、日本人名145(著者自身51)
- EIERの論文引用 3件

● EIER 第8巻、第9巻Suppl.

- 引用(全論文等) 本巻 4件(延6)+(1) Suppl. 西部 3件

経済学の中核で勝負せよ。

- 新古典派理論の及ばないところで勝負するだけでよいか。
- 価格理論(国内価値論, Conventional Price theory)
 - 『基礎』<=塩沢:価格理論の欠如、西部忠の反論(九州部会)、桑垣豊:価格分布の統計的性質
 - R. Nelson (2012) *JoEE Online* Demand, Supply, ...
 - マークアップに基づく価格(Ricardo・Marxの現代版)
- 国際価格・賃金率格差
 - マルクス経済学・レギュレーション理論>国際経済を語るとき、その基礎となる理論は？
 - 古典派価値論(国内価値論+国際価値論)

現在の課題に 대응する経済学を(1)

● 製品多様性の問題

- Pasinetti, Saviotti, Witt, 吉川など
- 製品(財・サービス)の種類が一定なら、需要飽和により経済成長は制約される。
- 1992年以降の日本の長期停滞>>一因

● 製品数増大で総需要はどう伸びるのか？

- 経験的？
- 経済物理的考察？
- ネットワーク論？

● 需要制約下の経済過程(数学でもABSでも)

● 経営学>人工物設計論

現在の課題に 대응する経済学を(2)

● アジア経済の新局面

- Boyer, Uemura and Isogai (2012) *Diversity and Transformations of Asian Capitalisms*
- Yokokawa (2012) *The Renaissance of Asia and the Emerging World System*

● 資本主義の多様性(ホール&ソスキス、山田鋭夫)

- 制度的比較優位？
- 基礎理論の欠如？>リカード・スラッファ貿易理論
- 理論と政策の混同？(理論には多様な政策が含まれうる)

具体的な提案(1): ABSの確立

● 経験的難点

- ヤッコー(“やってみたら、こうなった。”)
- 結果の解釈とパラメータ変化への頑健性

● 良いモデルの構成

- 現実離れ? どういう側面で現実的か
- 経済学の重要な問題に光を当ててるものか
- 内部構成の妥当性(過大な合理性? 均衡の忍び込み?)

● より原理的な問題

- 演繹(数学・証明)とシミュレーション(計算)
 - ◆ カリー・ハワード同型対応(飯田編『論理の哲学』7章)
- 実験、統計的検証からの知見

具体的な提案(2): 方法としての進化

- 複製子・相互作用子だけでよいか
 - Hodgson & Knudsen vs. Nelson
 - 『進化経済学 基礎』 複製子・相互作用子＋批判的实在論
 - Dawkinsの進化論(進化論反対者の存在)
- 進化のより広い見方
 - S. Kaufman (Tominomori, EIER, 2006)
 - J.H.ライヒホルフ『進化の創造力』1999
 - 川出由己『生物記号論』2006
- もっと議論を

具体的な提案(3): 経済成長

- ネルソン(1998) 設立大会での講演
 - 技術進歩によって推進された経済成長
- 経済成長における需要制約
 - Keynes; Pasinetti, Saviotti, Witt, Valente(2012)
 - 青木・吉川、松前龍宜、黒瀬一弘、吉井哲
 - 製品の多様化 (⇔ Dixti-Stiglitz, Krugman)
 - 藤本隆宏(設計論)、I. Steedman(予算以外制約)
- 成長・経済発展のhigh theoryを